

## 第6回「熱帯地域の養蜂」 国際会議

IBRA, コスタリカ国立大学主催による標記の会議が1996年8月12日～17日、コスタリカ大学で開催される。本会議は4年毎に開かれ、前回は1992年トリニダードトバゴで行われた。

詳細連絡先は Sixth IBRA Conference on Tropical Bees, IBRA, 18 North Road, Cardiff CF1 3 DY, United Kingdom.

## 日本養蜂はちみつ協会常務理事の 塗師田光伴氏が退職

31年間にわたり日蜂協の事務局長、常務理事を勤められてきた塗師田光伴氏が2月末をもって退職された。後任には元農水省畜産局の弘中佳則氏が就任。

## 玉川大学ミツバチ科学研究施設から

### 阪神大震災の被災地の皆様に お見舞い申し上げます。

阪神大震災の被災地の皆様に謹んでお見舞い申し上げます。当研究施設あてにも各国の研究者から電子メールやファクシミリ、手紙でお見舞いが寄せられた。ミツバチによる地震予知の研究を進めているウクライナの Komissar 博士からもその研究成果を含めたお見舞いの手紙が届いている。それによれば冬季、越冬蜂球を形成しているミツバチが地震の約1時間前に興奮し始め、巣箱内の温度の上昇が観察された。これを利用して巣箱内の温度や騒音をモニタする警報装置を作り、その後ミツバチの異常な飛行が見られたら地震の発生を確信できるという。

### 訂正

ミツバチ科学 16巻1号(1995年1月10日発行)の記事中に誤りがありましたので訂正いたします。

阿部 岳氏の「スズメバチ栄養液の運動への作用」の記事

1ページ、右段下から4, 7, 8行目。尾を腹柄に

6ページ、左段上から1行目。

引き役体を引き金役に

7ページ、左段下から3行目。

美味しさを美味しいに

### IBRA 評議委員、地域幹事の交代

1995年1月より国際ミツバチ研究協会(IBRA)の評議委員に、これまで日本地域幹事を勤めていた松香光夫教授が元玉川大学教授西井哲夫氏に代わり就任した。日本地域幹事は吉田忠晴助教授が務めることになり、会員のお世話をすることになった。

### 編集後記

1月15日の研究会には全国各地から170名の参加者を迎え、盛会であった。ただ翌々日の17日に起こった阪神大震災では、阪神方面から出席の方々も大きな被害を受け、ここに謹んでお見舞い申し上げます。研究会での講演内容であるマルハナバチを利用したトマト、イチゴ、メロン、ナスの交配試験結果を静岡県農業試験場の池田氏に、自然環境が悪化する都会の中であって、ランに飛来するニホンミツバチなどについて岡田名誉教授に寄稿を受けた。福島県立博物館の佐治氏には、日本民具学会で発表されたニホンミツバチ伝統養蜂の調査結果の一部をまとめていただいた。巣箱がタッコ、スズメバチがカメバチの呼称やヒトとハチの関係など貴重な記録である。北海道静内町で養蜂を営みながら日本蜂針療法研究会を主宰する太田氏に蜂針療法の現状について解説いただいた。日本の養蜂産業の推移は日蜂通信で発表された内容に図、表を改変したものである。深江、春井氏の寄稿にお礼申し上げます。(忠)